



令和8年度 果樹情報 第7号

(令和8年6月18日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (6月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が19.2℃で平年より0.1℃低く、第2半旬が17.6℃で平年より2.1℃低く、第3半旬が19.5℃で平年より0.7℃低く経過しました。

この期間の降水量は57.5mmで平年比137%と平年並でした。日照時間は76.1時間で平年比73%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (6月15日現在、果樹研究所)

6月14日時点の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.5、深さ40cmで2.4、深さ60cmでは2.4となっており、概ね適湿状態です (図1)。

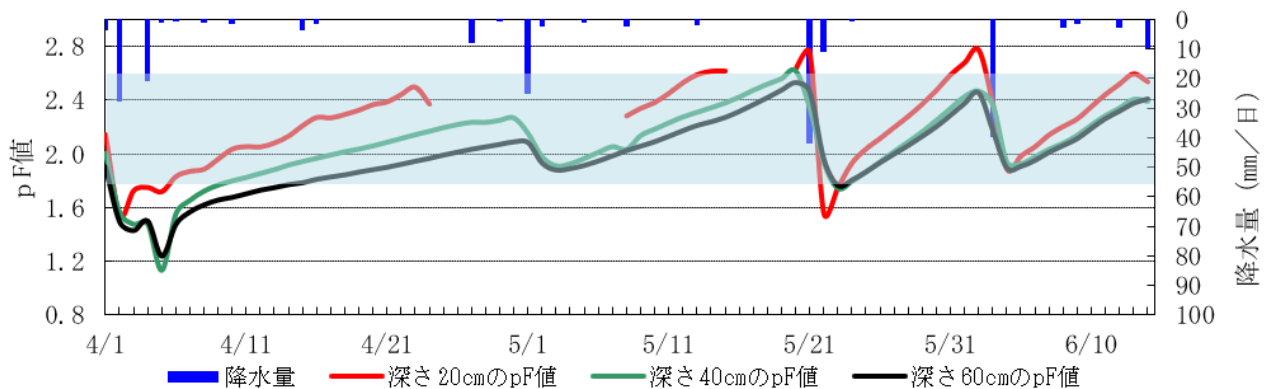


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (6月16日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が50.3mm(平年比113%)、側径が50.0mm(平年比123%)、「ゆうぞら」は縦径が48.7mm(平年比109%)、側径が43.4mm(平年比114%)と両品種ともに平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「あかつき」は平年より大きく、「ゆうぞら」は平年よりやや大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後60日における「あかつき」の新梢長は12.6cm(平年比107%)と平年よりやや長く、展葉数は16.2枚(平年比112%)で多く、葉色は平年並となっています(表1)。「ゆうぞら」は、新梢長は16.2cm(平年比126%)と平年よりかなり長く、展葉数は16.6枚(平年比118%)で多く、葉色は平年並となっています。新梢停止率は、「あかつき」が98%、「ゆうぞら」が45.0%でした。

ウ 核障害の発生

満開後60日における「あかつき」の核障害発生は、核頂部亀裂が35.0%と平年より少なく、縫合面割裂が20.0%と平年より多い状況です(表2)。

エ 硬核開始日

今年の「はつひめ」の硬核期開始は6月1日(満開後51日)で平年より8日早く、「あかつき」の硬核期開始は、5月31日(満開後51日)で平年より7日早くなりました(表3)。

オ 収穫期予測

果樹研究所における「はつひめ」の発育予測では、本年の収穫開始日は6月26日ごろ、収穫盛期日は6月29日ごろで、ともに平年より9日早い見込みです（表4）。「あかつき」の収穫期予測は、収穫開始日は7月23日ごろ、収穫盛期日は7月26日でともに平年より6日早い見込みです（表5）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により変動することがあるため注意が必要です。

表1 ももの新梢伸長（満開後60日）

| 品種 | 新梢長(cm) | | | 展葉数 | | | 葉色(SPAD) | | | 新梢停止率(%) | | |
|------|---------|------|-----|------|------|-----|----------|------|-----|----------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 |
| あかつき | 12.6 | 11.8 | 107 | 16.2 | 14.5 | 112 | 40.4 | 42.1 | 96 | 50.0 | 50.9 | 98 |
| ゆうぞら | 16.2 | 12.9 | 126 | 16.6 | 14.1 | 118 | 40.5 | 42.3 | 96 | 25.0 | 56.0 | 45 |

注) 平年は、1996～2025年の平均値

表2 ももの核障害発生状況（品種：あかつき）

| 年 | 満開後日数 | 30日 | 45日 | 50日 | 55日 | 60日 | 65日 | 70日 | 75日 | 85日 | 95日 | 収穫果 |
|---------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2026 | 核頂部亀裂 | 12.5 | 20.0 | 5.0 | 50.0 | 35.0 | - | - | - | - | - | - |
| | 縫合面割裂 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20.0 | - | - | - | - | - | - |
| 2000 ～2025 | 核頂部亀裂 | 32.9 | 37.7 | 42.5 | 48.3 | 51.2 | 47.3 | 44.3 | 40.0 | 45.4 | 47.0 | 45.0 |
| | 縫合面割裂 | 0.1 | 0 | 1.3 | 2.9 | 11.0 | 21.9 | 26.6 | 24.4 | 33.5 | 36.6 | 25.5 |

注) 平年は2000～2025年までの平均値

表3 ももの硬核期

| 品種 | 硬核期開始日 | | | |
|------|--------|------|------|------|
| | 本年 | 昨年 | 平年 | 平年差 |
| はつひめ | 6月1日 | 6月7日 | 6月9日 | 8日早い |
| あかつき | 5月31日 | 6月5日 | 6月7日 | 7日早い |

表4 モモ「はつひめ」の発育予測（6月15日現在）

| | 観測日 | | 予測日 |
|-------|-------|------|-------|
| | 昨年 | 平年 | 本年 |
| 収穫開始日 | 6月30日 | 7月5日 | 6月26日 |
| 収穫盛期日 | 7月4日 | 7月8日 | 6月29日 |

注1) 平年は2010～2025年の平均値。

注2) モモ「はつひめ」の発育予測は誤差を生じる場合があることに留意する

表5 もも「あかつき」の発育予測日（6月15日現在）

| | 観測日 | | 今後の気温経過 | | | |
|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|
| | 昨年 | 平年 | 気象予報 | 平年並 | 2℃高い | 2℃低い |
| 収穫開始日 | 7月25日 | 7月29日 | 7月23日 | 7月23日 | 7月22日 | 7月23日 |
| 収穫盛期日 | 7月29日 | 8月1日 | 7月26日 | 7月26日 | 7月26日 | 7月27日 |

注1) 平年は1996～2025年の平均値

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は誤差を生じる場合があることに留意する

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 29.3 mm (平年比 103%)、横径が 35.7 mm (平年比 107%)、「豊水」は縦径が 31.5 mm (平年比 104%)、横径が 35.0 mm (平年比 108%) と両品種ともに平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年よりやや小さく、「豊水」は平年並です。

イ 新梢生長

満開後 60 日における「幸水」の予備枝新梢長は 93.2 cm (平年比 94%) で平年よりやや短く、不定芽新梢長は 89.6 cm (平年比 101%) と平年並です。予備枝新梢の葉枚数は 26.8 枚 (平年比 103%) と平年並です (表 6)。

満開後 60 日における「豊水」の予備枝新梢長は 88.5 cm (平年比 89%) と平年より短く、不定芽新梢長は 74.8 cm (平年比 92%) とやや短くなっています。予備枝新梢の葉枚数は 26.1 枚 (平年比 100%) で平年並でした。

ウ 生育予測

6 月 14 日現在の DVR モデルによる「幸水」の発育予測では、裂果期は 7 月 3 日ごろで平年より 10 日早い見込みです。また、収穫盛期の予測は 8 月 21 日ごろで平年より 6 日早い見込みです (表 7)。

表 6 なしの新梢生長 (満開後 50 日)

| 品種 | 予備枝新梢長 (cm) | | | 不定芽新梢長 (cm) | | | 予備枝葉数 (枚) | | |
|----|-------------|------|-----|-------------|------|-----|-----------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 |
| 幸水 | 93.2 | 98.8 | 94 | 89.6 | 88.9 | 101 | 26.8 | 26.0 | 103 |
| 豊水 | 88.5 | 99.4 | 89 | 74.8 | 81.4 | 92 | 26.1 | 26.1 | 100 |

注) 平年値：新梢長は 1996~2025 年、葉枚数は 1998~2025 年の平均値

表 7 なし「幸水」の裂果期、収穫盛期予測

[予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測]

| | 本年予測 | 平年 | 昨年 | 平年差 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 裂果期 | 7月3日 | 7月13日 | — | 10日早い |
| 収穫盛期日 | 8月21日 | 8月27日 | 8月23日 | 6日早い |

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 45.8 mm (平年比 111%)、横径が 47.1 mm (平年比 107%)、「ふじ」は縦径が 41.0 mm (平年比 109%)、横径が 40.9 mm (平年比 107%) と両品種ともに平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年よりやや小さい状況です。

イ 新梢生長

満開後 50 日における新梢長は、「つがる」が 14.8 cm (平年比 70%)、「ふじ」が 14.4 cm (平年比 71%) と両品種ともに平年よりかなり短くなっています (表 8)。新梢停止率は、「つがる」「ふじ」とともに 100% でした。

表8 りんごの新梢長及び新梢停止率

| 品 種 | 満開後 日数 | 新梢長 (cm) | | | | 新梢停止率 (%) | |
|-----|-----------|----------|------|------|-----|-----------|-------|
| | | 本年 | 昨年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 昨年 |
| つがる | 20 | 11.0 | 11.3 | 13.1 | 84 | 13.9 | 6.7 |
| | 30 | 13.3 | 17.2 | 18.1 | 74 | 55.6 | 70.0 |
| | 40 | 14.4 | 19.7 | 20.4 | 71 | 91.7 | 86.7 |
| | 50 | 14.8 | 20.4 | 21.3 | 70 | 100.0 | 93.3 |
| ふじ | 20 | 13.4 | 13.7 | 15.7 | 85 | 52.8 | 13.3 |
| | 30 | 13.9 | 18.0 | 19.2 | 72 | 88.9 | 51.7 |
| | 40 | 14.4 | 19.8 | 20.0 | 72 | 100.0 | 96.7 |
| | 50 | 14.4 | 19.8 | 20.2 | 71 | 100.0 | 100.0 |

注) 新梢長平年値は、1996～2025年の平均値
 供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 20年生
 「ふじ」/マルバカイトウ 23年生

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後 60 日における「巨峰」の新梢長は 151.9 cm (平年比 133%) で平年よりも長く、展葉数は 17.8 枚 (平年比 116%) で平年より多い状況です (表 9)。

イ 開花状況

満開は、「シャインマスカット」が 6 月 4 日で平年より 7 日早くなりました (表 10)。

表9 ぶどう「巨峰」の新梢生長

| 発芽後 日数 | 新梢長 (cm) | | | 展葉数 (枚) | | |
|-----------|----------|-------|-----|---------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 |
| 50 | 115.2 | 85.4 | 135 | 14.2 | 12.2 | 117 |
| 60 | 151.9 | 114.2 | 133 | 17.8 | 15.4 | 116 |

注) 平年値は 2006～2024 年の平均値

表10 ぶどうの開花日

| 品 種 | 開花始め | | | 満開 | | |
|-----------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 昨年 | 本年 | 平年 | 昨年 |
| 巨 峰 | 5月28日 | 6月3日 | 6月4日 | 6月1日 | 6月7日 | 6月8日 |
| あづましずく | 5月27日 | 6月3日 | 6月4日 | 5月31日 | 6月8日 | 6月8日 |
| シャインマスカット | 5月31日 | 6月6日 | 6月7日 | 6月4日 | 6月11日 | 6月11日 |

注) 平年値：「巨峰」は 1998～2025 年、「あづましずく」は 2004～2025 年、「シャインマスカット」は 2009～2025 年の平均値

4 栽培上の留意点

近年は、無降雨日の期間がしばらく続いた後にまとまった降雨に遭遇し、乾燥や急激な吸湿の影響とみられる生理障害が見られることがあるため、気象情報に留意して適度なかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア かん水

5 月から夏期にかけて果樹園からの 1 日当たりの蒸発散量は、晴天日で 6～7 mm、曇天日で 2～3 mm、平均で 4 mm 程度のため、1 回のかん水は 25～30 mm 程度 (10 a 当たり 25～30 t) を目安とし、5～7 日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1 回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう (地表面からの蒸発散量は、

草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) 降ひょう害対策

降ひょう被害が発生した地域では、令和8年6月3日付発行の農業技術情報第5号「ひょう害が発生した農作物の技術対策」(URL: www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/744791.pdf)を参考に対策を実施して下さい。

(3) もも

ア 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

修正摘果は、果実肥大や果形に注意して実施します。特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。果樹研究所における満開後 60 日の核頂部亀裂は少なく、縫合面割裂は多い状況です。園地ごとに発生状況を確認し、発生が多い場合は修正摘果を 2～3 回に分けて実施し、商品果率の向上に努めましょう。

樹勢低下が見られる場合には、新梢生長と果実肥大が確保されるよう葉枚数に応じた着果量にするなど、適正な着果管理に留意しましょう。

イ 着色管理と極早生品種の収穫

「あかつき」の発育予測では、収穫期は平年より早まる見込みですが、今後の気象によって変動することがあります。園地や品種ごとの果実の成熟状況に注意し、枝吊りや支柱の設置、夏季节せん定及び反射シート設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

ウ 核障害多発時の注意事項

核障害のある果実は胚に障害が見られることが多く、硬核期以降に胚が障害を受けた場合は、多雨条件下では生理落果が発生しやすくなります。また、胚に障害を持つ果実は早熟することが多いので、収穫が遅れないように注意しましょう。

(4) なし

ア 予備枝管理

「幸水」における予備枝の誘引適期は、新梢停止期の約 10 日前の満開後 65 日頃です(新梢長が 90～100 cm、展葉節数が 23～26 節が目安)。

DVR モデルによる「幸水」の発育予測では、裂果期(新梢停止期)は 7 月 3 日ごろと予測されるため、6 月下旬ごろが作業のピークとなるように誘引を行いましょう。

(5) りんご

ア 着果管理

仕上げ摘果は満開後 60 日までに実施しましょう。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率低下の原因となるため、注意が必要です。結実の少ない園地では着果数の確保を優先し、最小限度の摘果を行いましょう。

仕上げ摘果終了後は、修正摘果へ移行し、果形や肥大状況等をよく確認しながら、小玉果や変形果、病害虫の被害果、傷果、サビ果等を摘果しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ、傷果防止のため、支柱立てや枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意しましょう。

(6) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生要因となります。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響します。そのため、2 回目のジベレリン処理前の予備摘粒時からベレーゾン(水回り)期までに数回に分けて着房数の見直しを行い、適正着果量に調整しましょう。摘房は、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行いましょう。特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要となります。

(ア) 長梢せん定樹の場合

最終着房数の目安は、「巨峰」では3.3m²当たり9～10房、「高尾」では10～11房としましょう。

(イ) 短梢せん定樹の場合

果房重500gで、10a当たりの目標収量を1.5t(3,000房/10a)とする場合、3新梢に2果房～4新梢に3果房程度に摘房しましょう。

イ 袋かけ・カサかけ

摘粒作業が終わりしだい、薬剤散布を行い袋かけ・カサかけを行います。この作業は病虫害防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要な作業です。また、使用した枚数を把握することで、着果量調整の目安になります。棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

6月16日現在、東北地方の梅雨入りは発表されていませんが、今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがあります。気象情報に留意し、生育に応じた計画的な防除を実施しましょう。また、耕種的防除(病斑の除去や新梢管理)を徹底し、発生密度の低減を図りましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病・輪紋病

梅雨期に入り降雨が増加すると、二次感染を繰り返し発病が急増するおそれがあるため、本病の発生が認められる場合は10日間隔で本病防除剤を使用し、対策を徹底しましょう。また、輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となるため、6月中旬頃にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布しましょう。

イ モモせん孔細菌病

梅雨期に入り降水量が多くなると、感染が増加するおそれがあるため引き続き注意が必要です。病原細菌は降雨で拡散するため、防除対策はできるだけ降雨前に実施しましょう。

薬剤防除は、気象情報に留意しながら降雨前の予防散布を基本に10日間隔で実施しましょう。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意し、使用する薬剤を選択してください。

新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい状況ですが、春型枝病斑の発生は7月ごろまで長期間にわたるため、見落としがないよう丁寧に樹冠内部まで確認してください。発病部位の取り残しは被害拡大につながるため、発病した枝、葉、果実などは見つけしだい取り除き、密度低減に努めましょう。特に、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止しましょう(図2)。

また、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行いましょう。

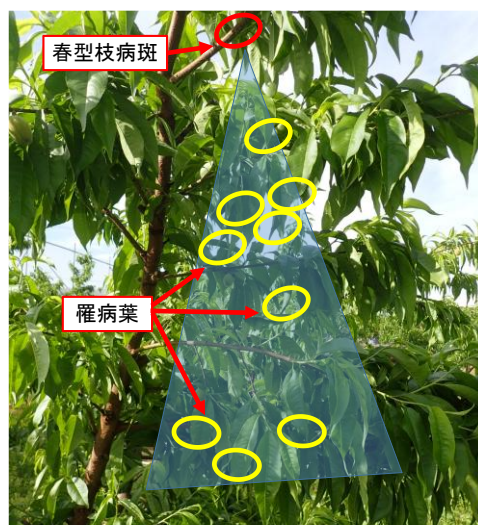


図2 春型枝病斑とその直下における新梢葉での発病

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

早生種では灰星病の重要防除時期であるため、花腐れや葉腐れが見られた園地では、6月中下旬及び7月上旬に防除効果の高い薬剤を使用しましょう。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意してください。中～晩生種では、灰星病とホモプシス腐敗病を同時に防除するために、7月上旬にダコレート水和剤を1,000倍(収穫3日前まで)で使用しましょう。

エ ナシ黒星病、輪紋病

ナシ黒星病は、梅雨期に入り降水量が多くなると、感染が増加するおそれがあるため引き続き

注意が必要です。特に、「幸水」では満開後 50～90 日ごろに本病に対する果実の感受性が高まり、重要防除時期にあたります。

防除対策は、園内をこまめに見回り、果そう基部や葉・果実等の罹病部位を徹底して除去しましょう。薬剤散布については、使用する薬剤は地域の防除暦等を参照し、薬剤の散布間隔があきすぎないように注意しましょう。気象情報に留意し、降雨前の予防散布を心がけ、散布むらがないように十分な量を使用しましょう。新梢発生が旺盛となる時期なので、薬剤散布前には新梢管理を行い、枝葉の混雑による散布むらをなくしましょう。

また、輪紋病も梅雨期が重点防除期にあたるため、6月中下旬及び7月上旬ごろに両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布してください。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょう。

オ ブドウ晩腐病

6月中～下旬頃の幼果期にミギワ 20 フロアブルを 2,000 倍で使用し、速やかにカサ掛けを行いましょう。カサは雨もりを防ぐように丁寧に行いましょう。

なお、果面の汚れを防ぐため、袋かけが終了するまで展着剤は加用しないように注意しましよ
う。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第2世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、6月5半旬ごろと予測され、第3世代幼虫の防除適期は6月6半旬ごろと推定されます(表11)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましよ
う。

イ ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、6月3半旬ごろと予測され、第2世代幼虫の防除適期は6月5半旬ごろと推定されます(表11)。

本種の第1世代幼虫は、主にもも等の核果類の新梢に寄生(芯折れ症状)し、第2世代以降はなしなどの果実に移行します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましよ
う。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましよ
う。

ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているもも園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、生育に合わせて10日間隔で2～3回防除を行います。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めてください。また、前年に被害が多発した園地では袋かけを早急に実施しましよ
う。

エ ナシマルカイガラムシ

果樹研究所内のリンゴでは、6月1日に歩行幼虫の発生が初確認されました。ナシマルカイガラムシ第1世代のふ化盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、6月2半旬頃と推定されます(表11)。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましよ
う。ただし、1回の防除では十分でないため、1週間から10日後にもう1度防除することが望ましいです。

オ ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行いましよ
う。

カ カメムシ類

山間及び山沿いの園地では、飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましよ
う。

表 11 果樹研究所における防除時期の推定（令和 8 年 6 月 15 日現在）

| 今後の気温予測 | モモハモグリガ | | ナシヒメシンクイ | | ナシマルカイガラムシ | |
|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 第 2 世代 誘殺盛期 | 第 3 世代 防除適期 | 第 1 世代 誘殺盛期 | 第 2 世代 防除適期 | 第 1 世代 ふ化開始 | 第 1 世代 ふ化盛期 |
| 2℃高い | 6月22日 | 6月27日 | 6月14日 | 6月22日 | 5月29日 | 6月9日 |
| 平年並 | 6月24日 | 6月28日 | 6月14日 | 6月24日 | 5月29日 | 6月9日 |
| 2℃低い | 6月25日 | 7月1日 | 6月14日 | 6月26日 | 5月29日 | 6月9日 |

起算日：モモハモグリガ第 1 世代誘殺盛期 5 月 27 日
 ナシヒメシンクイ越冬世代誘殺盛期 4 月 16 日
 ナシマルカイガラムシ 3 月 1 日（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■ 農薬使用基準の遵守 ■ 農薬飛散防止対策の徹底 ■ 住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>